

### 馬の虫刺されによる過敏症




浦河診療所 櫻井健太郎

8月に入り、暑くなる日も出てきたことと思います。今回は夏によくみられる虫刺されによる過敏症についてお話させていただきます。

虫刺されによる過敏症は、サシバエ・ブユ・アブなどの吸血昆虫の唾液腺物質や毒成分が体内に侵入することで引き起こされるアレルギー反応です。この過敏症は、夏に多く見られます。症状は、かゆみを特徴としますが、かゆみを引き起こさずに丘疹（皮膚表面の隆起した腫れ）や痂皮（かさぶた）のみがみられることもあります。馬はかゆみを和らげるために、こすったり、噛んだりします。その結果、脱毛や皮膚の肥厚、二次的な細菌感染を引き起こす可能性があります。皮膚病は顔、たてがみ、胴回り、鼠径部、しっぽなど虫が咬みやすい場所によくみられます。多くの馬はある程度年齢が経ってから発生しますが、アレルギーに過剰反応しやすい馬は1歳ごろから症状を示すことがあります。診断は病変の分布または臨床症状などから行われます。

場合によってはかゆみや腫れなどを軽減させる対症療法の治療を行うときもあります。また、二次的な細菌感染がみられた場合は抗生剤の投与を行う場合もありますが、まずは昆虫に咬まれる回数を減らしていくことが大事です。気温、湿度、日射はかゆみを悪化させるため、日陰の設置や扇風機により風の流れを作ることにかゆみを緩和します。また多くの吸血昆虫は飛ぶのが下手なため、馬に虫が近づかないようにすることもできます。吸血昆虫の活動時間をさけた放牧や虫の発生源となる場所の衛生管理なども有効な手段のひとつです。防虫スプレーやハッカ油なども効果的であり、吸血昆虫が吸血しやすい馬体の部位に散布することで防虫効果が得られやすくなります。また、ハッカ油は他の忌避剤と比べて天候などに左右されず使用でき、さらに清涼感や殺菌効果、消臭効果、炎症鎮静効果なども期待できます。また、飼料添加物であるアマニに豊富に含まれるオメガ-3脂肪酸は、虫刺されによる過敏症の症状を軽減する可能性があるという研究報告もあります。

最後に、吸血昆虫の一覧をまとめましたので、防虫対策の一助となれば幸いです。

昆虫	発生源	吸血する時間帯	吸血する場所
ブユ 	堆肥場、水場	朝と夕方	顔、耳、腹部、鼠径部 太もも、前肢内側
サシバエ 	少し古めの糞	昼	腹部、四肢
アブ 	植物の葉裏、水場	昼	胸部、脇腹、四肢